

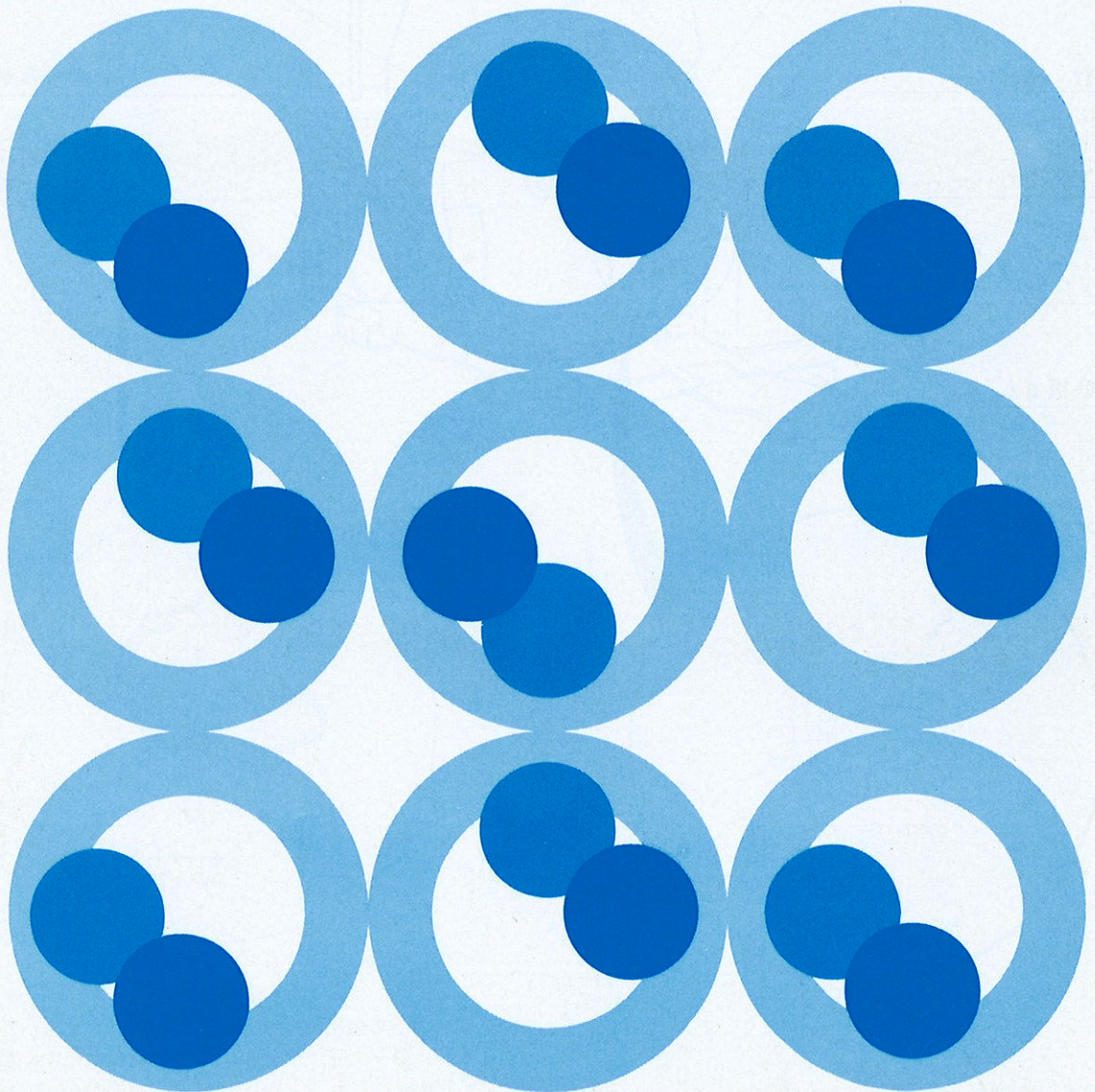
# ベビーロック

2本糸普通ロック・巻きロックミシン

BL2-215DX型

ご使用のてびき

株式会社 **ジューキ**



取手形糸案内

押え調節ねじ

上メス

押え金

針板

下側面カバー

メスカバー

底板ゴム

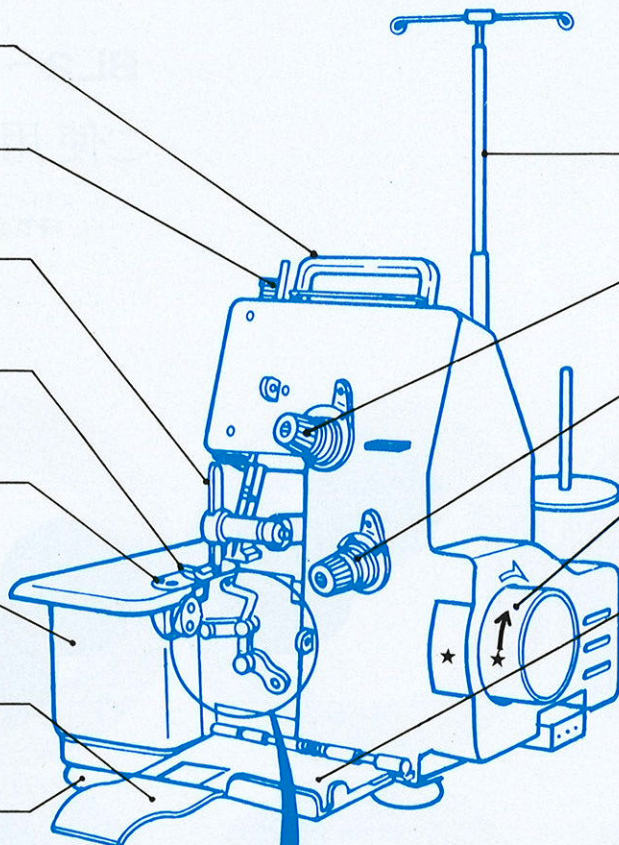
糸立装置

針糸調子器

ルーパー糸調子器

はずみ車

カバー台

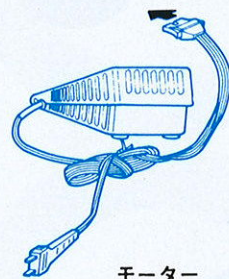
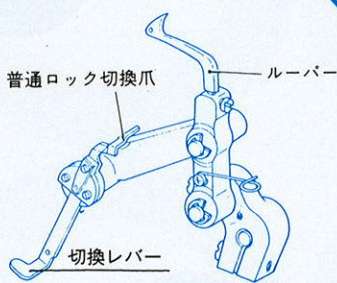


普通ロック切換爪

ルーパー

切換レバー

ルーパー部詳細図



モーター  
コントローラー

※安全のため使用後は電源プラグを抜いて下さい。  
また、コントローラーの上に物を載せないでください。

# はじめに

このたびは、ベビーロックBL2-215DX型をお買上げいただきまして、ありがとうございます。BL2-215DX型を最も有効に末永くお使いいただくために、この手引きをお役だてください。

## 目 次

1. 縫うための準備	1
1-1. 糸のかけ方	1
1-2. 縫いについて	3
1-3. 普通ロックから巻きロックへの切換え	4
1-4. 巻きロックから普通ロックへの切換え	4
2. 糸調子のとり方	5
2-1. 普通ロックの場合	5
2-2. 標準巻きロックの場合	6
2-3. 変形巻きロックの場合	6
3. 押え圧力について	7
4. 送り目の調節について	7
5. 縫い速度について	8
6. 針の交換	8
7. メスの交換について	9
8. 注油について	10
9. 点検と調整について	10
10. ミシンライトをつけるとき	11
11. 梱包明細	11
12. 布地と糸・針の関連表	12

# 1 縫うための準備

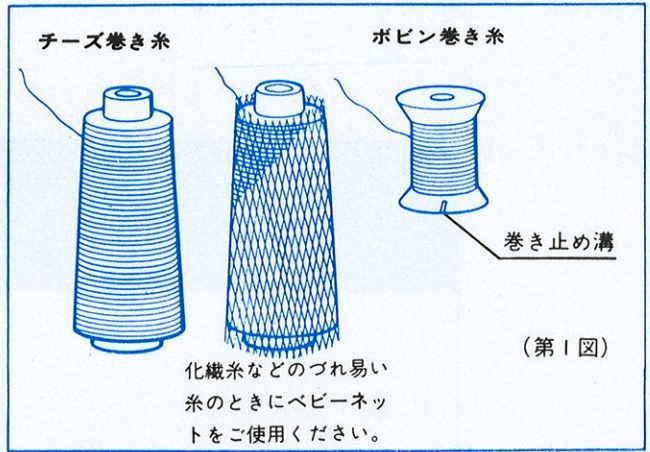
## 1-1 糸のかけ方

### ① 糸巻きのセット

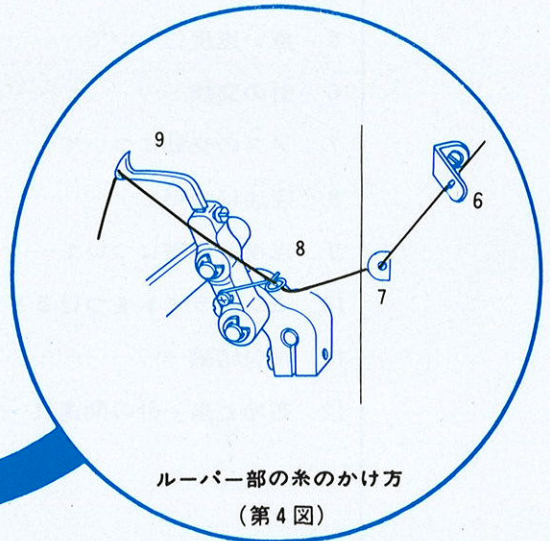
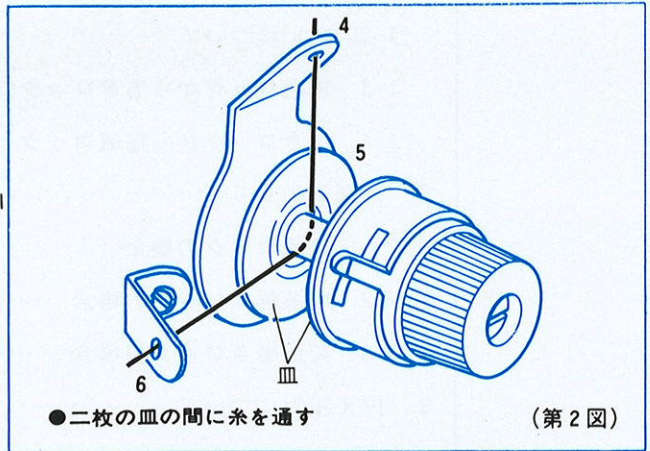
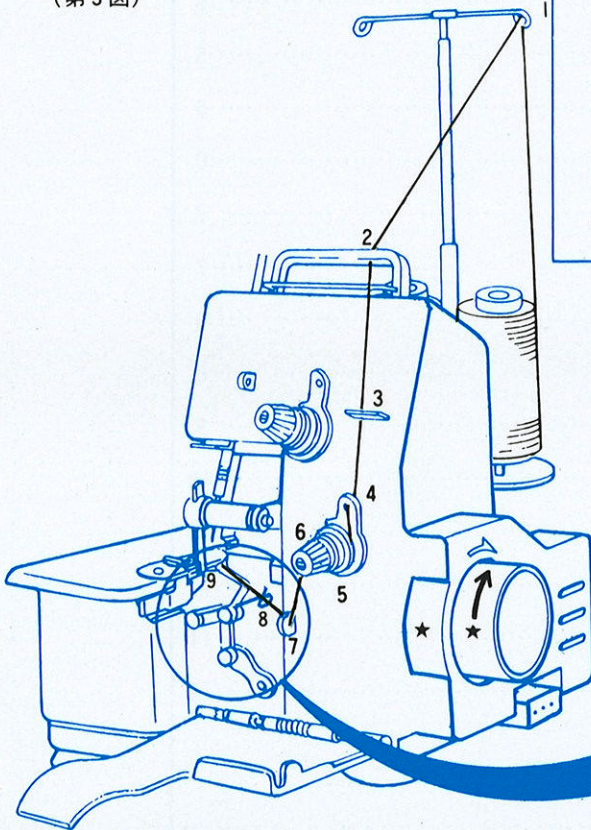
このミシンには普通チーズ巻きの糸を使いますが、ボビン巻き糸もお使いになれます。この場合は、糸の巻き止め溝を下にしてセットしてください。

### ② ルーパー糸のかけ方

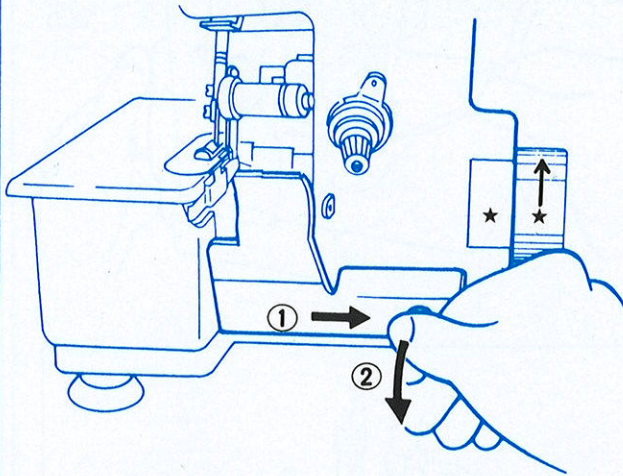
先ず「第5図」のように、メスカバー台を開きます。次に「第3図」「第4図」のように、順次糸を通してください。糸通しが終わったらメスカバー台は閉めてください。ルーパー糸は押え金の下から約10cmひきだしておきます。



(第3図)

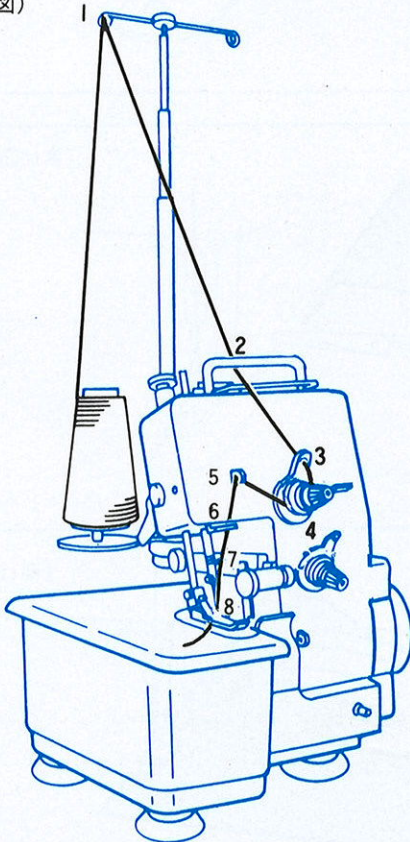


(第5図)



ツマミを右に引いてから手前に倒してください。

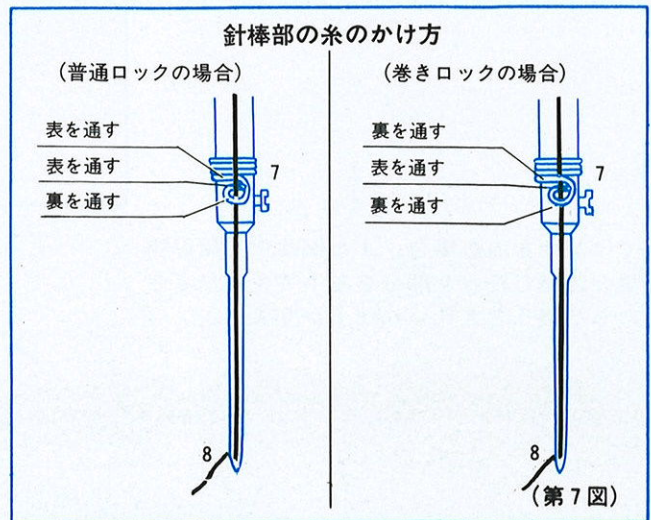
(第6図)



### ③ 針糸のかけ方

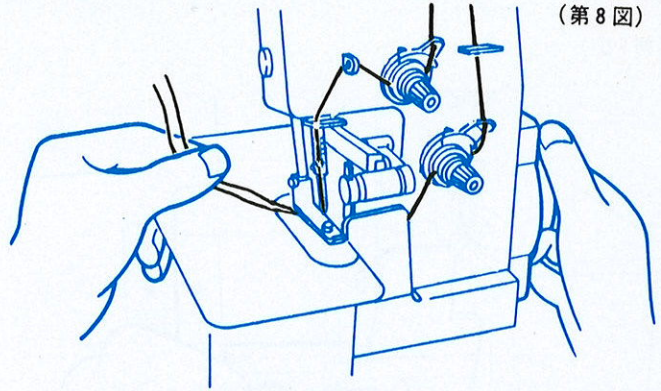
「第6図」「第7図」のように順次通してください。針穴には、手前から向こう側に通して、糸を押え金の下から約10cmひきだしておきます。

尚、針棒糸案内⑦の糸かけは「第7図」のように普通ロックと巻きロックの場合とは異なります。



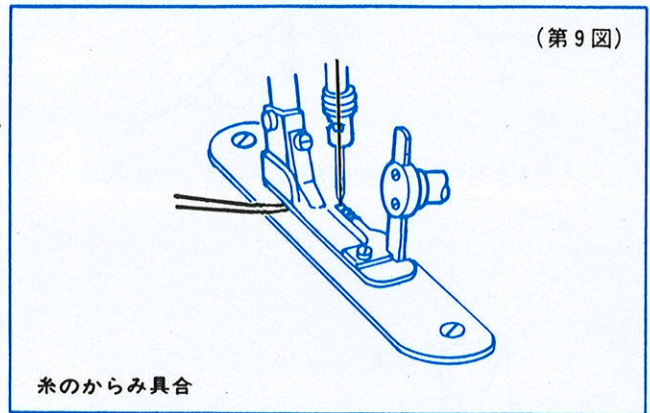
## 1-2 縫いについて

- ①糸かけの終わった針糸とルーパー糸の両端を「第8図」のように左手指で少し張りぎみにつまみ右手ではずみ車を矢印方向に回して両糸のからみぐあいを確認、それから布地をセットして縫いをはじめてください。

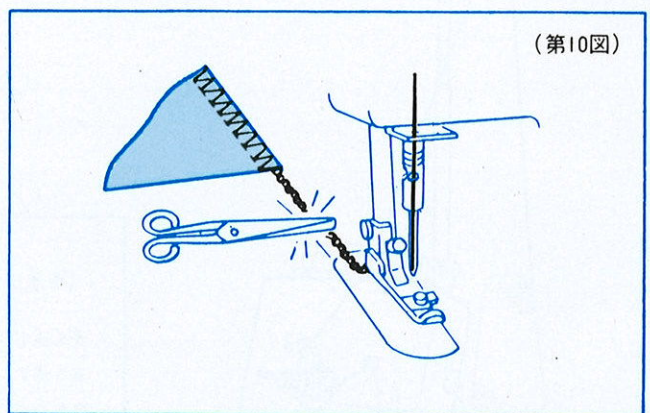


- ②針糸とルーパー糸のバランスが悪いと布地にしわができた、縫い目が不揃いになることがあります。

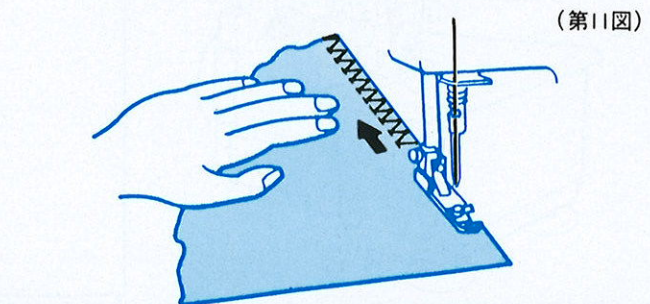
「糸調子のとり方」の項を参照してください。



- ③縫い終わりは、「第10図」のように布地の端から空環を2cm～5cm長くとり、切断してください。



とくに薄物布地の場合、また編物など極厚物の場合は縫い終わり部分を左手で少しひきぎみにして縫うときれいに仕上がります。

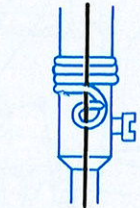
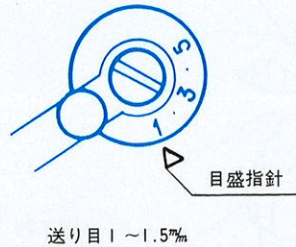
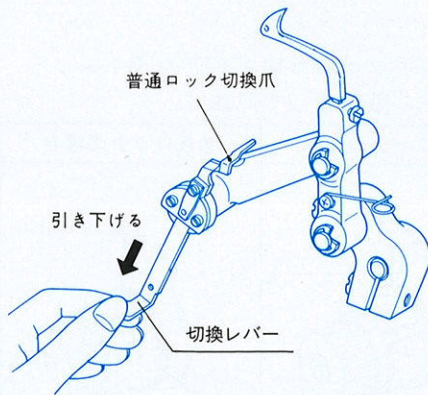


### 1-3 普通ロックから巻きロックへの切換え

このミシンは普通ロックと巻きロックの2つの機能を兼ねています。

納品時は普通ロックにセットされていますが、巻きロックにするときは、次の順序で行なってください。(下側面カバーを開けると切換え操作図がありますので参照して下さい)

- ① 押え金をあげ、はずみ車を矢印方向に回わし、矢印下の赤★印をベルトカバー上の赤★印に合わせる。
- ② 針板爪にからんでいる空環を引き抜く。(針最上点位置)
- ③ 切換えレバーを、いっぱい引きさげる。
- ④ 押え金をさげる。
- ⑤ 送り目を1~1.5%位にする。
- ⑥ 針棒糸案内部の糸かけを図のようにする。



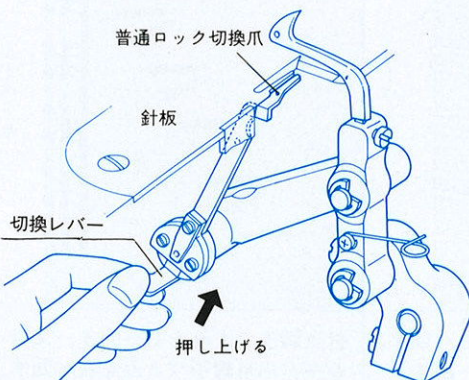
針棒糸案内の糸かけ

(第12図)

### 1-4 巻きロックから普通ロックへの切換え

巻きロックから普通ロックにするときは、次の順序で行なってください。

- ① 押え金をあげ、はずみ車を矢印方向に回わし、矢印下の赤★印をベルトカバー上の赤★印に合わせる。
- ② 針板爪にからんでいる空環を引き抜く。(針最上点位置)
- ③ 普通ロック切換え爪が針板に当たるまで切換えレバーを押しあげる。
- ④ 押え金をさげる。
- ⑤ 送り目を3%位にする。
- ⑥ 針棒糸案内部の糸かけを図のようにする。

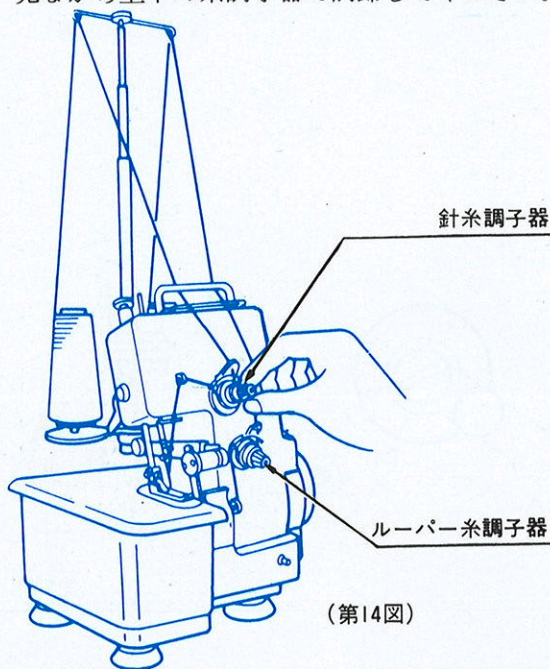


針棒糸案内の糸かけ

(第13図)

# 2 糸調子のとり方

糸調子のとり方は、布地の種類や使用糸の太さ、種類によって違います。そのつど縫い目を見ながら上下の糸調子器で調節してください。(時計方向に回すと、糸調子は強くなります)



各糸調子つまみの端を下記の通りセットしてから微調節して下さい。

普通ロックの場合	巻きロックの場合
<p>青シール</p>	<p>赤シール</p>

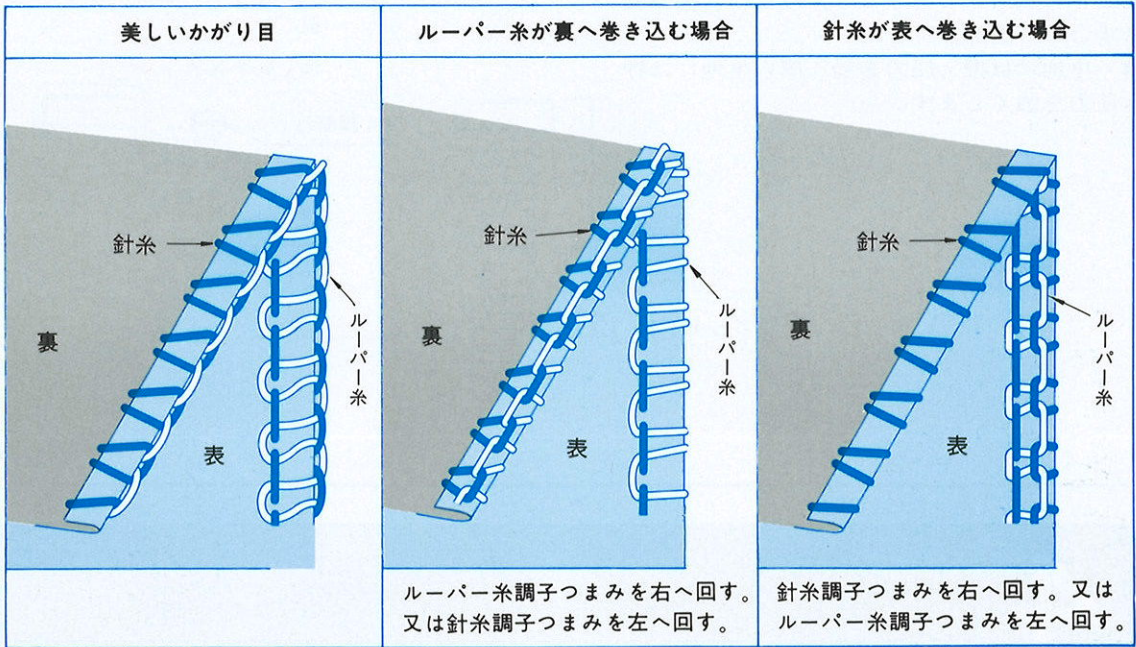
## 2-1 普通ロックの場合

美しいかがり目	ルーバー糸が裏へ巻き込む場合	針糸が表へ巻き込む場合
<p>針糸</p> <p>裏</p> <p>表</p> <p>ルーバー糸</p>	<p>針糸</p> <p>裏</p> <p>表</p> <p>ルーバー糸</p>	<p>針糸</p> <p>裏</p> <p>表</p> <p>ルーバー糸</p>
	<p>ルーバー糸調子つまみを右へ回す。又は針糸調子つまみを左へ回す。</p>	<p>針糸調子つまみを右へ回す。又はルーバー糸調子つまみを左へ回す。</p>

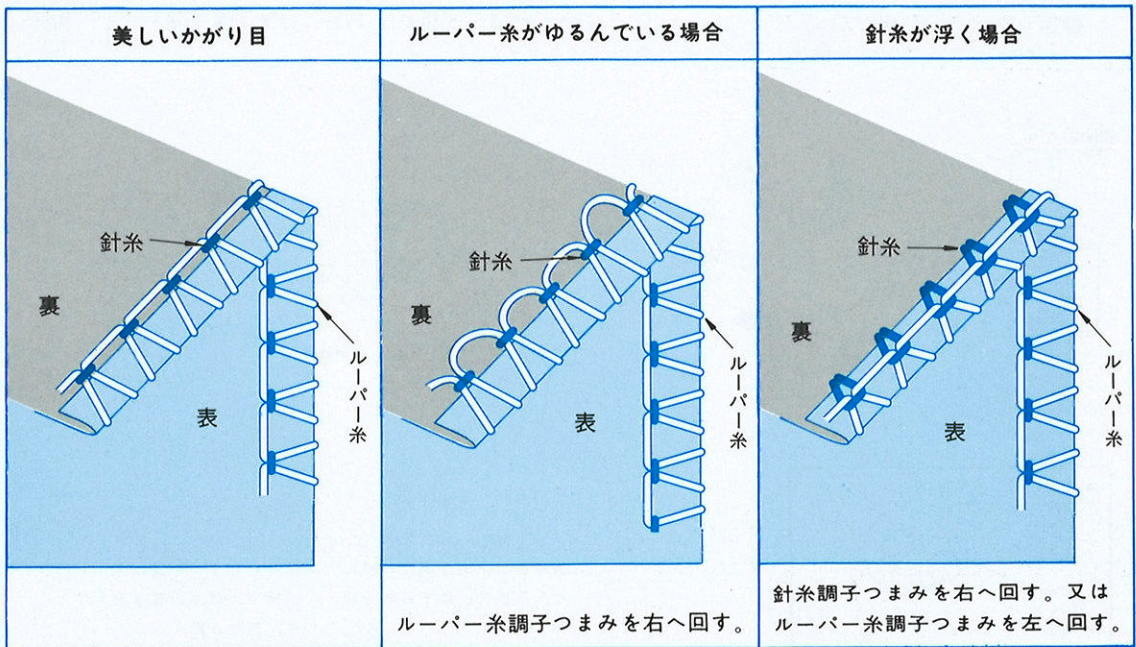


## 2-2 標準巻きロックの場合

このミシンの巻きロックは、標準の縫い目とルーバー糸が巻き込んだ変形縫い目の2通りの縫い方ができます。



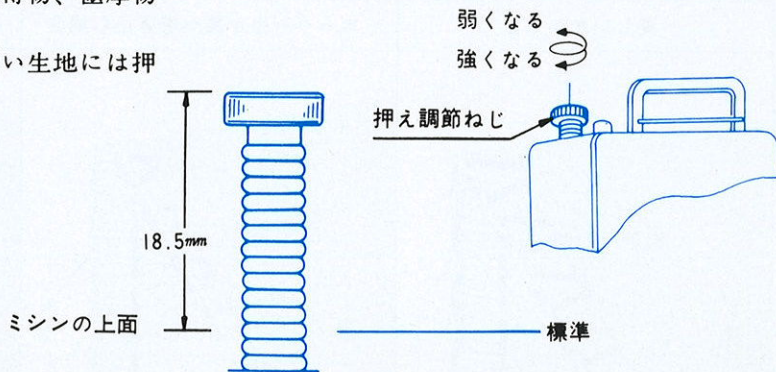
## 2-3 変形巻きロックの場合



# 3 押え圧力について

このミシンは、すでに押え圧力を標準（中厚物用）に調節してあります。極薄物、極厚物の場合のみ調節してください。薄い生地には押え圧力を弱く厚い生地には押え圧力を強くします。

押え圧力の調節の仕方



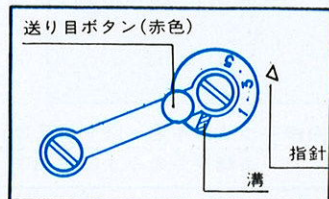
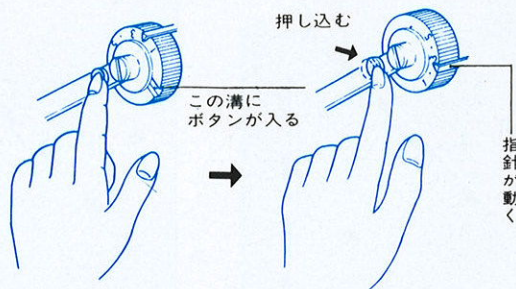
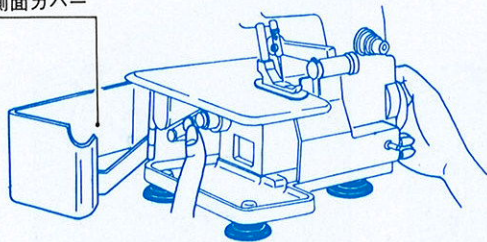
(第15図)

# 4 送り目の調節について

送り目の調節は下側面カバーを開いて行ないます。

- ①左手で送り目ボタン(赤色)を強く押しながら、溝に送り目ボタンがパチンと入るまで、右手ではずみ車を廻わす。
- ②送り目ボタンが溝に入ったまま(送り目ボタンを押し続けた状態で)、再び、はずみ車を廻わすと、指針が動きます。この時、指針を希望の送り数字に合わせる。

下側面カバー



送り目ボタンが溝にパチンと入るまで、はずみ車を廻わす。

送り目ボタンが溝に入った状態で、はずみ車を廻わすと、指針が動く。

(第16図)

# 5 縫い速度について

このミシンは、ペダルを深く踏むと回転は速くなり、また浅く踏むと回転は遅くなります。コントローラーの踏み加減で速度を決めてお使いください。

# 6 針の交換

はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業してください。

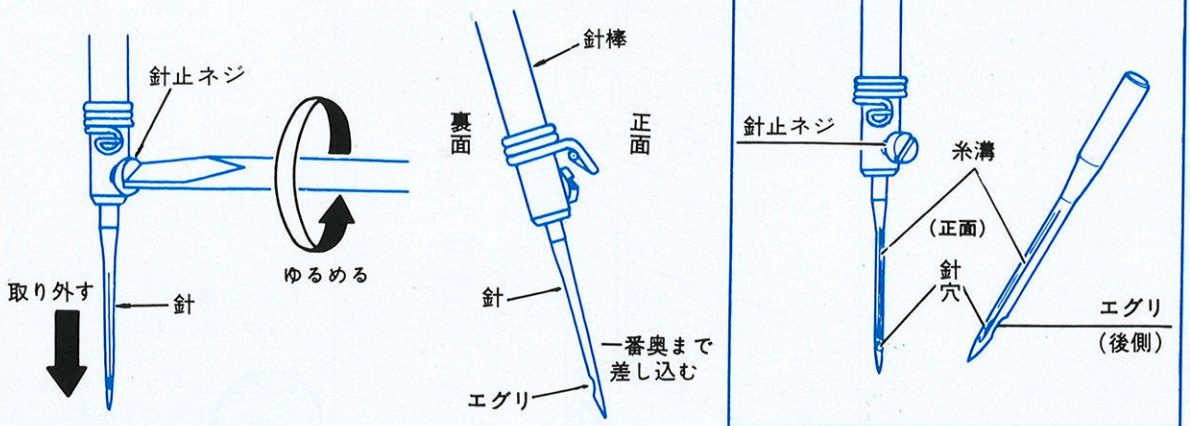
① はずみ車を矢印方向に回し、矢印下の赤★印をベルトカバー上の赤★印に合わせる。

(針最上点位置)

② 針止ネジを矢印方向にゆるめて針を取り外す。

③ 付属の新しい針の黄▼マークを必ず手前(エグリの有る方は後側)にして、針棒穴の一番奥まで差し込み、針の向きが狂わないように手で押え、針止ネジを固く締める。

※ 尚、市販でお求めになったDC×1針には、この▼マークがありません。従って市販針を取り付ける場合は、必ずエグリの有る方を後側(向こう側)にして下さい。



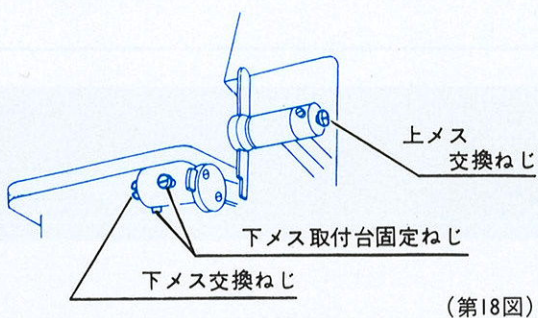
(第17図)

# 7 メスの交換について

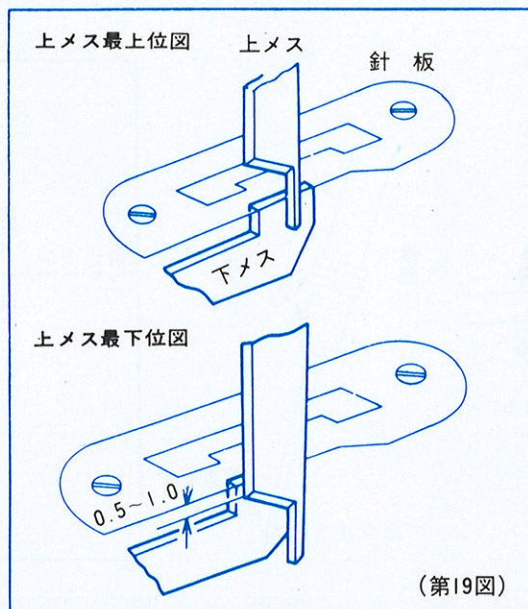
はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業してください。

メスは消耗品ですので切れなくなったら交換してください。

- ① 上メス、下メス共にメス交換ねじをゆるめて行ないます。



- ② 下メスのとりつけ位置は、「第19図」のように針板のメス溝に合わせて固定します。
- ③ 上メスの正常なとりつけ位置は、上メスが運動していちばん下がった位置のとき、上メス手前刃先が下メス刃先上面に対して0.5~1.0mmほど沈むように位置決めしてください。(第19図参照)

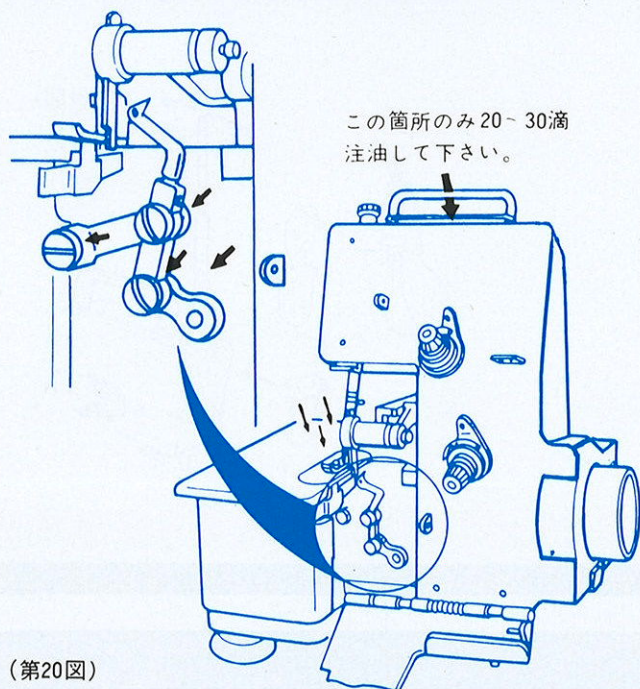


※メスの購入先  
ミシン店、又は



このマークのお店で  
お求めください

## 8 注油について



(第20図)

このミシンの大切な個所には、すべて特殊な材料（含油メタル）を用いておりますが、図に示したような赤印のついている個所に定期的に1～2滴注油してください。

## 9 点検と調整について

このベビーロックは、むずかしい専門的な調整をしないですむように設計されています。つぎのような5つの例は、基本的な調整ができていないときに起りやすい故障ですから、よく覚えておいてください。

### A) ミシンが動かないとき

- コードをちゃんと差しこんでありますか。
- モーターの取付位置がズレていませんか。
- ベルトがゆるいものではありませんか。

### B) 糸が切れるとき

- 糸かけは正しいですか。
- 糸調子が強すぎませんか。
- 針は曲っていませんか。
- 押えの強さは適当ですか。
- 糸の種類はどうですか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

### C) 針が折れるとき

- 針が、針板や押えにぶつかっていませんか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

### D) 目とびするとき

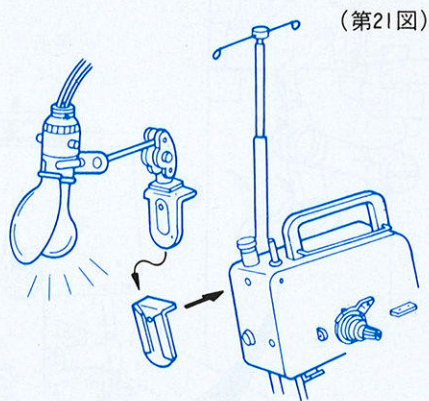
- 針が曲がっていたり、針先がすり減ったりしていませんか。
- 針を正しく取りつけましたか。
- 糸のかけ方が、まちがっていませんか。
- 押えが弱いものではありませんか。

### E) 縫い目の調子が悪いとき

- 上糸、下糸の張力調整は、じゅうぶんですか。
- 糸のかけ方は正しいですか。

# 10 ミシンライトをつけるとき

ライトをお使いになる場合は、市販されているミシンライトを「第21図」のようにとりつけてください。



# 11 梱包明細

1. ミシン(モーター付)
2. コントローラーセット一式
3. ご使用のてびき
4. 保証書
5. アクセサリーケース

ドライバー (マイナス用)  
針DC×1  
ピンセット  
ベビーネット

# 12

## 布地と糸・針の関連表

	布 地 の 種 類	糸	針
木綿 麻	[薄地] ボイル、ローン、ブロード、ギンガム、亜麻など	綿 #100 スパン #90	DC #11
	[厚地] コール天、デニム、キルティング、ギャバジンなど	綿 #60~50 スパン #80~60	DC #11 #14
絹	デシン、クレープ、オーガンジーサテンなど	絹 #100 テトロン #80~100	DC #11
毛	[薄地] トロピカル、ポーラ、ポプリンなど	スパン #80 テトロン #80 絹 #50	DC #11
	[普通地] サージ、ギャバジン、フラノなど	スパン #80~60 テトロン #80~60 絹 #50	DC #11 #14
	[厚地] ベロア、キャメル、アストラカン、ツイード、メルトンなど	スパン #60 テトロン #60~50 絹 #50	DC #14
化繊 合繊 混紡	[薄地] ジョーゼット、ボイル、サテンなど	スパン #90~80 テトロン #100~80	DC #11
	[厚地] シェンタン、ツイル、スエードなど	スパン #80~60 テトロン #80~60	DC #11 #14
ニット	トリコット (化繊、合繊) 天竺	スパン #90~80 テトロン #80~60	DC #11
	ジャージ (毛、合繊)	スパン #80~60 テトロン #60 絹 #50	DC #11 #14
	パール編 (毛、合繊) ゴム編 (毛、合繊)	スパン #80~60 テトロン #60~50 ウーリーナイロン ウーリーテトロン アンダリア	DC #14

基本項目	仕 様	基本項目	仕 様
かがり巾	普通ロック 3.5 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 巻きロック 1.5 <sup>m</sup> / <sub>m</sub>	使用針	DC×1 #11 #14 (標準)
縫い目(送り目)	1~5 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> (普通ロックの場合標準3 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> ) (巻きロックの場合標準1 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> )	使用糸本数	2本
針棒ストローク	27 <sup>m</sup> / <sub>m</sub>	給油方式	油芯装置付手差方式
メス上下量	7 <sup>m</sup> / <sub>m</sub>	ミシンの大きさ	タテ250 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 、ヨコ250 <sup>m</sup> / <sub>m</sub> 、高さ300 <sup>m</sup> / <sub>m</sub>
押え上り量	3.5 <sup>m</sup> / <sub>m</sub>	ミシンの重さ	8kg (モーター付完成品)

